

医学研究に関する情報公開および 研究協力へのお願い

奈良県立医科大学病院 眼科では、下記の臨床研究を実施しております。
この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。
このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。また本研究は、奈良県立医科大学 医の倫理審査委員会による審査・承認、学長による許可を得て実施する研究です。

【研究課題名】

抗菌薬点眼による注射後眼内炎予防効果の検討 多施設共同研究

【研究期間】

承認日～2021年12月31日

【研究の意義・目的】

加齢黄斑変性、糖尿病網膜症などの黄斑疾患に対する硝子体注射の重篤な合併症として、細菌性眼内炎があります。その予防として抗菌薬点眼が広く用いられていますが、実際に眼内炎発生率を低下させるかどうかははっきりしていません。本研究では福井大学以外にも国内の多くの施設から情報を収集して抗菌薬点眼が眼内炎発症率を低下させるかどうか調査します。

【研究の内容】

1. 研究の対象となる方

加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、近視性脈絡膜新生血管、糖尿病網膜症の患者さんで、2015年1月1日から、2019年12月31日の間に、硝子体注射の治療を受けた方

2. 研究に用いる試料・情報

(例) 診療の過程で取得されたカルテ番号、生年月日、イニシャル、診断名、年齢、性別、抗菌薬点眼使用歴、検査結果(視力検査、眼圧検査、画像検査・・・など)、副作用の発生状況、等

なお、研究成果は学会や雑誌等で発表されますが、個人を識別できる情報は削除し、公表しません。また、取り扱う試料・情報は厳密に管理し、漏洩することはありません。

3. 研究の方法

抗菌薬点眼の使用の有無によって、細菌性眼内炎発症率に差があるか比較します。その他、眼内炎を生じた症例については視力や眼圧、画像検査の経過なども比較検討します。

【利益相反について】

利益相反とは、外部との経済的な利益関係(資金提供など)によって、研究データの改ざん、特定企業の優遇など研究が公正かつ適切に行われていないのではないか(企業に有利な結果しか公表されないのではないか)と第三者から懸念されかねない事態のことをいいます。

この研究は、特定の企業や団体から研究資金や給与・謝金など、特別な便宜を受けていないことを福井大学臨床研究利益相反審査委員会に全て報告し、利益相反状態でないと判定されています。研究を公正に遂行し、対象となる方に不利益になることや、研究結果を歪めることは一切いたしません。

【研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手・閲覧方法】

本研究では、研究計画書及び研究の方法に関する資料に関しては、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内に限り入手又は閲覧が可能です。その入手・閲覧をご希望される際には下記「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。

【研究組織】

1. 研究代表施設および研究統括者

福井大学医学部附属病院 眼科

医員 盛岡 正和

2. 共同研究施設等およびその研究代表者

徳島大学 眼科 教授 三田村 佳典

防衛医科大学校 眼科 教授 竹内 大

奈良県立医科大学 眼科 准教授 上田 哲生

東京医科大学八王子医療センター 眼科 後期研修医 曾根 久美子

神戸大学 眼科 講師 楠原 仙太郎
信州大学 眼科 助教 平野 隆雄
筑波大学 眼科 クリニカルフェロー 村上 智哉
鹿児島大学 眼科 医員 寺崎 寛人
ツカザキ病院 眼科 医長 永里 大祐
兵庫医科大学 眼科 助教 福山 尚
群馬大学 眼科 助教 永井 和樹
愛知医科大学 眼科 医師 笹島 裕史
聖路加国際病院 眼科 部長 大越貴志子
山口大学 眼科 非常勤医師 湧田 真紀子
滋賀医科大学 眼科 助教 澤田智子
市立札幌病院 眼科 医師 森潤也
久留米大学 眼科 教授 吉田茂生
名古屋市立大学 眼科 准教授 安川力
三重大学 眼科 講師 松原央
東京女子医科大学 糖尿病センター 糖尿病眼科 医師 石川邦裕
聖マリアンナ医科大学 眼科 診療助手 重城達哉

【本学における研究責任者】

奈良県立医科大学附属病院 眼科
准教授 上田 哲生

【本研究に関する問い合わせ窓口など】

○問い合わせ窓口

〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840 番地

奈良県立医科大学附属病院 眼科 准教授 上田 哲生

電話:0744-29-8884(内線 3433)

受付時間:平日 9:00~16:00(年末年始、祝・祭日除く)